人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.kagyoren.jf-net.ne.jp/

香川漁連だより

JF香川漁連
高松市北浜町８－25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長　嶋 野 勝 路

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

昨年の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の変異株による新たな脅威、ロシアのウクライナ侵攻に起因するエネルギー等の原材料価格の高騰、急激なインフレ、中国経済の失速等により、景気は減速したままです。国内経済も世界経済の減速を受け、円安による輸入原材料の高騰、生活必需品の価格上昇等により個人消費は落ち込み、景気は冷え込んだ状況が続いていますが、今年は卯年、卯は跳ねるとの格言にあるとおり、景気が上向き、回復することを願うばかりです。

このような中、県下の漁業を振り返りますと、漁船漁業では、ウクライナ侵攻・円安等の影響による燃油価格の高騰、一部魚種を除き漁獲量の減少が続き、漁家経営の収支は厳しい状況が続いております。一方、魚類養殖業では、東讃海域において２０１８年以来の有害赤潮によりトラフグやカンパチの被害がでました。また、ハマチ養殖は令和３年のモジャコの不漁による全国的な種苗不足により養殖尾数が減少し、価格高騰により消費が進まず厳しい状況となっております。ノリ養殖業では、１１月下旬に県下全体で本張りが始まり、水温の降下が鈍く魚等の食害被害はあったものの、３年ぶりに第１回乾海苔共販が実施されました。今後は生産が順調に継続され、今漁期が豊漁となることを祈念いたしております。

本会といたしましては、引き続き県内水産業の振興に努めるとともに、漁船リース事業、新リース事業、機器等導入事業等を推進し、地域全体の競争力強化を図ってまいります。併せて燃油及び配合飼料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業も推進してまいります。また、水産資源の安定供給及び漁業経営の安定を確保するため資源管理型漁業の普及啓発に努めるとともに、新たな資源管理の推進にあたっては、関係する漁業者の理解と協力を得た上で進めることとなっており、香川県、関係機関との協力、連携の下、推進するよう努めてまいります。

また、県産ハマチ・ノリ・イリコ等の消費拡大や販売促進を図る「さぬき海の幸販売促進協議会」事業を展開し、昨年１２月には池田香川県知事出席のもと、流通懇談会及びＰＲキャラバンとして、最大の消費地である首都圏の豊洲市場を訪問、市場卸売業者等と情報交換し、県内水産物のＰＲ活動を行いました。続く本年もコロナ対策を徹底し、関係団体、県、系統、業界が一丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進してまいります。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げる次第であります。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。

香川県海水魚類養殖漁業協同組合

代表理事組合長　高　野　勇

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスは世界的な感染拡大から２年以上が経過し、行動制限こそ解除されましたが、未だ収束には至っておらず、また、ロシアのウクライナ侵攻や円安の長期化を受け、燃油類を含めた生活物資全般の価格高騰による消費の落ち込みにより、国内漁業全体が大きな影響を受けたように思います。

県内海面養殖では、カンパチはほぼ前年並みの種苗搬入数となりましたが、ハマチは前年のモジャコ大不漁による全国的な種苗不足から、前年の７割程度の搬入尾数に留まり、減産を余儀なくされる事態となりました。カンパチは９月１５日から出荷を開始、１，４００円からのスタートで、１２月中旬の完売となりました。ハマチは、９月２１日から出荷を開始、全国的な在池不足の影響から、昨年より２７０円高い１，３００円からのスタートで、荷動きが悪い事から１２月からは徐々に値下げを行い、１月中旬頃には完売する見通しとなっております。経営面でみますと、養殖業者にとって大切な餌飼料価格は高止まりを続け、また燃油や漁業資材等、諸経費の高騰も著しく、魚価は上がっても取り巻く環境は極めて厳しい状況に置かれています。

今後、国が施策として進めております養殖業成長産業化総合戦略により、国内生産目標の増産への切替や、海外への輸出拡大が推し進められる一方、それに伴う餌飼料の確保や産地間競争の激化が、県内養殖が生き残っていく中での最重要課題と考えております。

そのような中、海水組合としましては、餌飼料価格の高騰対策としてセーフティーネット構築事業や生餌調整保管事業等の推進にも引き続き尽力し、また産地間競争におきましては「さぬき海の幸販売促進協議会」と協力し、引き続き香川が誇るブランド食材であるハマチ３兄弟のひけた鰤、なおしまハマチ、オリーブハマチやオリーブマダイの販路拡大とブランド強化に積極的に取り組んで参りますとともに、新たなブランド魚として「オリーブサーモン」の試験販売も予定しています。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体の皆様方からのご協力を仰ぎ、また、ご期待にお応え出来るよう、時代の荒波に負けることなく役員一同一丸となり、踏ん張っていく所存でございますので、何卒、尚一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人　香川県海苔養殖研究会

代表理事会長　西　口　正　弘

新年明けましておめでとうございます。令和５年度の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当研究会の事業運営につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、１月中旬から県下全域で栄養塩が急激に低下し、色のない製品が生産されるなど厳しい状況の中、共販枚数で約２億１，４５８万枚、金額で２３億１，３０４万円、平均単価１０．７８円となりました。

近年は、海水温の上昇、鳥や魚による食害等に加えて貧栄養化の影響も大きくなり、海苔の生産環境は厳しさを増し、減産要素を多く含んでいる中、環境に適した種苗開発、食害対策等が効果的に発揮されるよう実用化に向けた取組みを継続し、貧栄養化対策について検討していきます。

また、各種イベントの中止、縮小となり本会の消費活動も影響を受け、なかなかＰＲ活動が実施できず、商社訪問、着業検討会、後継者研修等も実施できませんでしたが、今年は今後のコロナ感染対策に則り、順次再開していきたいと思います。

今年度の海苔養殖業においては、９月２６日から採苗を開始して育苗・本張りと順調に行われ、栄養塩も例年になく高い数値で推移しておりましたが、海水温が高い影響で食害の被害が多く発生しました。第１回共販は、開催可否が懸念されましたが、無事開催することができ、今後の生産に期待したいと思います。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体と協力しながら皆様のご期待にお応え出来るよう、全力を尽くす所存でございます。何卒、本年も変わらずのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員各位、関係者の皆様のご健勝と本年海苔漁期の豊作、並びに皆様が笑顔で漁期終了を迎えられることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長　嶋 野 勝 路

新年明けましておめでとうございます。

令和５年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の対策としてワクチン接種が５回目まで行われており、入国制限の緩和など、withコロナに向けた動きが起こっております。しかし、未だに世界的にも感染拡大が続いており、新変異株の出現など、予断を許さない状況となっております。引き続き感染拡大防止対策に取り組み、一刻も早い事態の収束を願うばかりです。

漁業経営につきましては、燃油・資機材価格の高騰や消費動向の変動による魚価の低迷、海洋環境の変化に伴う不漁など、厳しい状況が続いております。

当組合におきましても、高齢化による組合員数の減少や携帯電話の普及に伴う無線利用者の減少が続く厳しい状況にあります。

漁業無線は災害時の避難情報や海難情報、操業の情報等を一斉送信でき、航行や操業の安全、漁業の効率化に繋がる情報手段として利点があります。また、昨年では北朝鮮によるミサイル発射が過去最多となり不安な日々が続いておりますが、発射情報を自動で船舶局へ発信するシステムが各海岸局に導入されており、迅速な情報発信体制の整備に取り組んでおります。引き続き、組合員の漁業操業の安全性確保に努めていきたいと思っております。

本年も、本県の基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員各位をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご支援の程よろしくお願い申しあげます。

結びにあたり、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を祈念申しあげ、新年のご挨拶といたします。

一般社団法人　香川県水産振興協会

会　長　　嶋 野 勝 路

新年明けましておめでとうございます。

令和５年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務遂行につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、コロナウイルスがおさまらず、国内経済は自粛気運が継続しましたが、イベント事業も徐々に再開され、ワクチン接種推進により感染者数は減少傾向になり、規制緩和なども後押しする形で経済活動も回復基調になっております。

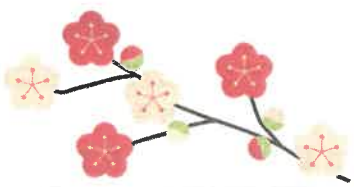
国内水産業においては、コロナ禍の影響により経済情勢の悪化など消費の減退に伴う魚価の低迷等の影響が続いています。また、物価の高騰による消費の減少が懸念されており、本年も水産業に与える影響が気がかりなところです。

また、多くの魚種で漁獲量の減少が見られ、水産資源の回復を切に願うところです。

本協会の事業といたしましては、引き続き４月初旬から１２月中旬までマダコ、ヒラメ、クルマエビ、キジハタ、メバル等の重要魚種の種苗放流を継続実施し、水産資源の維持増大に努めてまいります。また、水産物消費対策事業では、魚食普及の推進が大きな課題となっており、県産水産物の食材活用を目的とした水産食育教室を開催するとともに、近年増加している海中転落をはじめとした海難事故については、関係機関と連携し、ライフジャケットの着用推進を目的とした講習会を開催し、会員の皆様に法令遵守の啓発に努めます。併せて、ネットローラーの巻き込み防止装置につきましても設置推進を図ってまいります。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援を行い、大量の海岸漂着ごみの回収に協力してまいります。

最後に、令和５年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長　坂本　雅信

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

振り返りますと、昨年は、本会が皆さまに支えられ、創立７０周年を迎えた記念すべき年でありました。改めてこれまでの会員各位のご協力に深謝申し上げます。

漁業を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの感染拡大、海洋環境変化に起因する特定魚種における不漁、国際情勢の変化に伴う燃油・資材等の価格高騰など、依然として厳しく、ＪＦ全漁連会長就任以降、これらの諸課題に対応するため、ＪＦグループの先頭に立って、対策の確立などを関係要路に強く要請しました。その結果、要望事項を網羅するかたちで、５年連続で３，０００億円を超える予算を確保することができました。

また、昨年は新たな水産基本計画がスタートした年でもあります。本計画は、「海洋環境の変化も踏まえた水産資源管理の着実な実施」、「増大するリスクも踏まえた水産業の成長産業化の実現」、「地域を支える漁村の活性化の推進」を柱に、「海業」などの展開も位置づけられました。現在、全国の浜では、その実現に向け、漁業者およびＪＦグループが一丸となって、創意工夫ある取り組みを実施しており、本会は引き続きこれらの活動をサポートして参ります。

私は会長に就任してから「日本の漁業にはポテンシャルがある」ということをさまざまな機会に申しあげて参りました。日本の漁業はもともと豊かな海に囲まれた中で生まれた産業であり、多種多様な魚が日本の食文化を支えてきました。我々は、今後も将来にわたって、この資源をより有効に活用し、国内外の多くの人たちに全国の浜に出かけていただき、日本の水産物を食べていただけるような取り組みをサポートして参る所存です。併せて、プライドフィッシュプロジェクトや産直通販サイト「ＪＦおさかなマルシェ ギョギョいち」などを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担って参ります。

このほか、ＪＦグループの運動方針に則り、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革、浜プランの後押しなどに取り組み、浜の構造改革を実現して参ります。

東京電力福島第一原子力発電所におけるＡＬＰＳ処理水の問題については、「全国の漁業者・国民の理解を得られないＡＬＰＳ処理水の海洋放出に反対」という立場に変わりありません。我々が国に対して求めていた５つの要望に対する回答の１つである超大型基金が昨年度補正予算で措置されましたが、引き続き、残る４項目の申し入れ事項である漁業者・国民への説明、風評被害対策、ＡＬＰＳ処理水の安全性の担保等について、国に真摯な対応を求めて参ります。

ＪＦグループ関係者の皆さまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対して、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたくお願い申しあげます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

乾海苔初入札

令和４年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、１２月１６日（金）高松市瀬戸内町の本会共販所において開催されました。

第１回共販の様子

今年の本張りは県下全体で前年より少し早い張り込みになりました。高水温の横這い、例年以上食害等の影響もありましたが、１２月上旬からの生産となりました。第１回共販は、等級については初２等・初３等中心となり、価格は色のあるものは１７～１２円台、下物については８円台以上で取引されました。

初入札の出品枚数は７，８８９千枚、入札金額１億１４，０２１千円、平均単価は１４．４５円でした。

これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。